グローバル人材育成プログラムで学んだこと

大　西　祐　輝
Yuki ONISHI
電子情報学科　3 年

1. はじめに

2019 年 8 月 16 日から 9 月 1 日にかけてアメリカのサンフランシスコにて，企業の見学，ビジネスマンとのディスカッション，Ardenwood Historic Farm での就業体験を含むグローバル人材育成プログラムに参加した．このプログラムの具体的な研修日程を以下に示す．

表 1　研修日程

8/16（金）	アメリカ入国，IT 企業訪問
8/17（土）	Stanford University 見学 ビジネスマンとのディスカッション
8/18（日）	コンピュータ歴史博物館見学
8/19（月）～ 8/23（金）	Ardenwood Historic Farm でインターンシップ
8/24（土）～ 8/25（日）	自由行動
8/26（月）～ 8/30（金）	Ardenwood Historic Farm でインターンシップ
8/31（土）	自由行動
9/1（日）	帰国

2. 参加目的

私が今回このプログラムに参加した目的は 3 つあった．1 つ目は，日本では経験することのできないことを海外で学ぶ大きな機会だと考えたからである．2 つ目は，去年 ASEAN グローバルプログラムに参加し海外の人とつながる楽しさを知り，海外へ身を置くことで英語に触れる機会をもっと増やしたいと思ったためである．3 つ目は，海外でインターン体験をすることで 2 週間英語だけで生活できることに魅力を感じたからである．その経験が必ずこれからの人生で大きく影響するものになるだろうと感じた．

3. 研修内容

本プログラムの研修のうち私の中で特に印象に残ったビジネスマンの山田理様と Amil Khanzada 様とのディスカッション，および Ardenwood Historic Farm でのインターンの 2 つを書くこととする．

3.1　ビジネスマンとのディスカッション

8 月 17 日に行われたこの交流会では，実際にアメリカで働いているサイボウズ株式会社取締役副社長兼グローバルグローバル事業担当役員兼 kintone coorp 社長の山田理様と ZenIT の Amil Khanzada 様とディスカッションをした．まず，山田様のお話の中で印象に残っているものが 2 つあった．1 つ目は「武器があれば誰だってついてくる」ということである．たとえ片言の英語でもこの人と仕事がしたいと思う人がいれば人はついてくるということを聞いて，自分の武器ってなんだろうと真剣に考えた．しかしただ武器を持つだけでなく武器を磨き続けることの重要さも学んだ．もう 1 つは「辞表を片手に就職する」ということである．自分がしたいことをさせてもらえないような会社にいても楽しくない．自分たちが新しいものを生み出し非常識から常識に変えていくことの重要性を感じ，自分の武器を持ちそれを売り出していく人になれるよう頑張りたいと思った．自分の限界を決め制限するのではなく何事にも挑戦してみる大切さを学んだ．また，サンフランシスコには常に新しいものがありそれを経験し，身近なものにしておくとなにも怖いものがないというお話を聞いて，一番良いものに触れることが一番刺激になり得ると学んだ．Amil Khanzada 様のお話の中で印象に残っているものは見たり聞いたりして学ぶのも重要だが，雰囲気からも多く学び取る姿勢が大事であるということ，また，常にオープンでいて自分にないものを補うように工夫することが大事ということも学んだ．技術的なことができても精神的

写真 1　山田様の講演

写真 2　Ardenwood Historic Farm の皆様

なものや，人間的なものも成長できる環境に身を置くことの大切さを学んだ．大学の授業や，研究でこれを何のためにやるのか，どういうことに応用できるのかを常に考え技術者らしく学び，これからに活かしていきたい．また，自分に足りないものを補える環境に飛び込み活動していきたいと思った．

3.2　Ardenwood Historic Farm でのインターンシップ

8 月 19 日から 30 日の 10 日間　Ardenwood Historic Farm にてインターンシップを行った．ここでの作業内容は主に農場の整備や，動物の世話である．基本的に朝からは山羊と羊のゲージをする作業から始まる．それが終わってからは様々な仕事をさせていただいた．私が特に印象に残っている作業を紹介する．まず 100 年前に使用していた車輪付き荷台を使って鶏小屋を作るという作業である．まず最初に動かなくなった車輪を全部分解して 100 年前のグリスをガソリンを使って隅々まできれいにした．その後，水が中に入り込まないようにするのと同時に車輪が円滑に回転するようにグリスを塗った．荷台の上にはベニヤ板や角材を使って小屋を作った．今までにしたことない作業でとても充実だった．ここのファームには日本人の方は一人もいないため会話は全て英語で行った．作業内容の説明なども英語ですが，少しでもわからないことがあれば，「これで合ってますか」と毎回確認をして，わからないことをあやふやにしないように努めた．

Ardenwood Historic Farm でのインターンシップは曜日ごとや，やる仕事により担当してくれる従業員が違っていた．さらに従業員以外にもボランティアとして働きに来ている方や，小学生や親子連れなども訪れていて本当にたくさんの方々と関わりを持つことができた．

4.　おわりに

グローバル人材とは何かという問題について考える．渡米前は「グローバルな価値観を理解し，文化の異なる人々とコミュニケーションをとることができる人材」だと思っていたが，山田様や Amil 様の話を聞いてそれだけではなく「相手を理解し自分との差異から新たなものの価値を創造していける人材」も重要だと気づいた．ただ単にコミュニケーションをとることができるだけではなく自分にないものを多様な視点から観察し新たなものを生み出していく大切さを学んだ．今回のプログラムで学んだことを最大限に生かせるよう残りの大学生活や，就職後に自ら行動を起こしていきたいと思った．